

KAWAGUCHI

ART GALLERY

ATLIA







ABOUT ATLIA

川口市立アートギャラリー・アトリアは、
鋳物や緑化産業で発展した「ものづくりの街・川口」の
芸術文化の拠点となる美術施設です。
サッポロビール埼玉工場の跡地であるリボンシティの一角に、
平成18年（2006年）に誕生しました。
アトリアでは多彩な企画展やワークショップを通じて、
誰もが気軽にアートと触れ合い感性を育むことができます。

アトリアの4つの柱

1 企画展覧会

現代アートやデザインをはじめ、地域に根ざした企画展を開催しています。アートが内包する多様な価値観を提示すると同時に、地域資源をアートの視点から見直すことを試んでいます。

2 ワークショップなどの創作体験や 実技講座、鑑賞講座

子どもから大人まで楽しめる様々な企画を実施しています。造形に関するワークショップや実技講座のほか、映画鑑賞のプログラムもあります。

3 地域連携

地域や学校と連携して「川口市の小・中・高校生作品展」「川口市特別支援学級合同作品展」「水道ポスターコンクール展示会」などの展覧会やイベントを実施しています。

4 貸しギャラリー

市民をはじめとする一般の方々にアート活動や作品発表の場としてご利用いただくために、館内の展示室およびスタジオを貸し出しています。



アトリアのガラス窓に絵を描こう（2025）開催風景



日本画講座－日本画の伝統技法を学び作品を描く－
（2025）開催風景

アトリアの豆知識

アトリアの床材や柱には、かつてのサッポロビール埼玉工場の土台を支えた松杭が再利用されています。

施設名の「アトリア」は「アート」「リア（川口総合文化センターの名称）」「アトリエ」に由来する造語です。平成17年（2005）8月に名称の募集を行い、全国46都道府県から寄せられた1649通（市内からは799通）の応募の中から、厳正なる審査の結果「アトリア」が愛称として採用されました。



館内にはアート関連の書籍を自由に読むことができる
ライブラリースペースも設置。

周辺スポット紹介

～川口の街とアトリア～

川口は、古くは日光御成街道の宿場町として栄えた地域です。また荒川と芝川の合流地点であることから豊かな自然資源にも恵まれ、鋳物や植木など数百年にわたり続く産業と芸術文化が深く関わりあいながら発展してきました。

現在は東京のベッドタウン、住みやすい街として人気の川口ですが、アトリアのまわりにはかつてのサッポロビール埼玉工場の名残を感じるスポットを、駅周辺では伝統的な鋳物の技術を活かした彫刻作品などを見ることができます。

街の歴史に思いをはせながら、ぜひ川口のまちを歩いてみてくださいね。

1 ビール仕込み釜



2 サッポロビール埼玉工場記念マンホール



3 大徳稲荷神社



4 SL・青葉通り



1 篠原 勝之 「SAILING TREE」



2 富田 匠美「働く歓び」(部分)



3 建畠 覚造 「WAVING FIGURE」(部分)



5 川口駅の銘板（駅名表示板）



6 「ビール」の名前がついた電柱



周辺アート作品



① 篠原 勝之
「SAILING TREE」 (2006 年作)
[アトリア横]

2006年4月22日のアトリア開館を記念して制作されたモニュメント。ワークショップに参加した川口市内の小中学生60名が身のまわりから拾い集めた鉄をもとに「鉄のゲージツ家」の異名を持つアーティスト・篠原勝之さんが制作しました。

② 富田 匠美「働く歓び」 (1974 年作)
[川口駅東口 キュポ・ラ広場]

川口を代表する鋳物工場で働くことの素晴らしさを表現した作品。鋳物職人がキューポラ（溶鉱炉）で溶かした鋼鉄を「湯汲」と呼ばれる柄杓で受け、一気に鋳型に注ぎ込む注湯作業のようすを表しています。公益社団法人川口青年会議所より川口市に寄贈され、今日に至るまで川口の街のシンボルとなっています。



③ 建畠 覚造「WAVING FIGURE」 (1992 年作)
[川口西公園 (リアパーク)]

戦後の日本で抽象彫刻を確立した彫刻家の一人である建畠覚造と、川口市内の金属加工会社が手を組み制作されました。立方体の12本の辺を波形に置き換えた形をしていて、正面に立つと中心の6本の辺は曲線ではなく直線に見えるよう計算されています。

サッポロビール埼玉工場跡地 [リボンシティ]

かつて市内には、豊かな地下水が湧き、あちこちに井戸があったといわれます。この良質な地下水を活かして、サッポロビール埼玉工場は大正14年（1925年）から78年間にわたり操業していました。



① ビール仕込み釜

[並木元町公園（アートパーク）内]

サッポロビール埼玉工場で実際に使用されていた仕込み釜の1つがモニュメントとして残されています。仕込み釜の周りには、当時の工場の外観や醸造室の風景が描かれたプレートが設置されています。

② サッポロビール埼玉工場記念マンホール

[リボンシティレジデンス内]

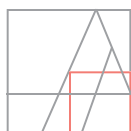
工場の敷地内で実際に使用されていたマンホールです。現在はリボンシティレジデンスの敷地内で見ることができます。サッポロビールのシンボルである星のマークがあらわれていて、赤・青・緑の三種類があります。古くから鋳物産業が盛んな川口では、ほかにも趣向を凝らしたマンホールが町中に数多く点在しています。



③ 大徳稲荷神社

[並木元町公園（アートパーク）そば]

サッポロビール埼玉工場の敷地内にかつてあった神社が移設され、今も残っています。社号標にはビール製造技術者から経営者になり「日本のビール王」と謳われた昭和初期の実業家 高橋龍太郎の名が刻まれています。



ATLIA

Kawaguchi Art Gallery

川口市立アートギャラリー・アトリア

〒332-0033 埼玉県川口市並木元町 1-76

TEL / 048-253-0222 mail / info@atlia.jp

休 館 日 / 月曜日（祝日の場合は翌平日）・年末年始・施設整備期間

開館時間 / 10:00 ～ 18:00（最終入館 17:30）

アクセス / JR 川口駅（京浜東北線）東口から徒歩約 8 分

駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

バリアフリー設備 / スロープ、段差のないフロア、多目的トイレ

写真掲載にあたり、可能な限り権利関係の確認を行っておりますが、一部について管理者を特定することができませんでした。
万一掲載に不都合がございましたら、関係者の方はご一報いただければ幸いです。